

五、寄稿

「上地っ子」は幸せ！

若松東 津曲 里美

上地小学校開校以来、子供たちが何かとお世話になっていきます。「何かお役に」と思いつつも、毎日が過ぎていきました。二年前、「役員に」と頼まれました。ふつつかな私でしたが、お引き受けし、二年間頑張ってきました。

その間、私がいちばん感じたことは、「人と人との心のふれあい」でした。いろいろな人にお会いし、お友達もでき、よい経験をさせていただきました。また、役員になったおかげで、時々学校へ出掛けて、先生方とお話する機会もあり、学校と家庭の連絡の必要を痛感しました。上地小の先生方は、とても明るく、活気にあふれていて、教育熱心です。また、気軽に話ができます。

とかく現代っ子は、もやしっ子とか、ひ弱で、がまん強さに欠け、自主性がないといわれていますが、「上地っ子」は、決してそうではないと思います。

私が、朝、学校の用事でかけると、まず、子供たちが「おはようございます。」と、大声で元気よく出迎えてくれます。とても気持ちが良い、私も思わず声をかけてしまいます。

子供たちがのびのびしているのは、やはり校長先生はじめ先生方のご指導が、よく行き届いているからだと思いました。

また、校長先生から、「ひとり一人を大切に」のお言葉を聞き、感心しました。こうして育つ「上地っ子」は幸せ！

草木や、やぎや小鳥や池の鯉などを育てて、自然と動物を愛し、優しさと思いやりを持つ子供に育てようと目指しておられます。また、どんな場合でも、強く生きるようなたくましさも身に付けるよう指導しておられます。

終わりに、上地小の子供たちが、みんな強く、明るく、元気な子供になってほしいと思います。

子供の成長を考える

上地七区 小西 裕子

子供の成長は回りの環境によって大きく変化すると思われれます。自然環境、文化的環境も重要ではありませんが、何と云っても、親、先生、そして友達がその子の人生を左右するといっても過言ではないと思います。

我が家は、上地学区に多い、両親共に地方出身の核家族です。今のところ父親の転勤は考えられないので、この土地で子供たちは成長していくことになるでしょう。四年生になった長女は、一歳八か月でこの地にやって来て、八年余りになります。両親はなかなか上地の人間になりきれないのに、子供たちはしっかり上地っ子です。もちろん、私も子供たちのことを考えたり、自分自身のためにも友達を見つけ、それなりに仲良くやってきたつもりですが。

子供は、小さい頃、親同士仲の良い子供や、近隣の同年代の子供たちとよく遊びます。多少性格が違ってても、親の作った友達の輪の中で遊べるものです。ところが、成長にともない自然と自分自身で友達を選んで遊びだします。

長女が三年生のある頃、

「今日ね、長坂先生と遊んだのよ。」

と、耳慣れない先生の名前が飛び出してきました。「へー。」なんて聞いていると、

「校長先生とも遊んだり、お話ししたりするよ。」

と言い出すのです。上地小の職員室はとても開放的だとは伺っているものの、どちらかというと内弁慶でおとなしい性格の長女が、こともあろうに校長先生や担任以外の先生方と進んで会話するなんて、びっくりするやら、うれしいやら。よく聞いて

みるとどうも友達に誘われてのことらしいのです。

長女が三年生になってから、我が家に入出入りする友達が何人かいますが、その友達が実にいいのです。一、二年生の頃は無作為に友達を作っていました。三年にもなると、それなりに気の合う子、習い事などのスケジュールの合う子を友達としているようです。活発ではきはきと何でも素直に言える子、言葉数は少ないが心のしっかりしている子、他人のことを思いやる優しい子、どの子をとっても良い子たちで、彼女たちの影響で、長女には職員室が身近になっていったのでしょうか。

また、ある時、長女が遊びに来た友達と男の子の名前を呼び捨てに、わいわいやっていたり、大好きな雑誌を話題にキャッキャ騒いでいる様子など普段の長女からは考えられないことでした。小学校に入学して、友達のことなど不安だった長女も親の心配をよそに、友達を作り、友達の影響で明るく振る舞い、それなりに成長しているようです。

結局、子供は、親がどんなに説き伏せても強制してもできなかった事を、友達によっていとも簡単にやってのけるのです。最近、私は、家庭の中でのみ子供を見てその子を判断するのは良くないと思うようになりました。子供にとって家庭、学校はもちろんですが、友達の輪の中でおたがいの関わり合いがとても重要で、親はその関わり合いを垣間見ることで、その子がよく見えてくると思うのです。

四年生は、まだまだ親の意見が反映し、ともすると強制しうる年代ですが、あまり口を出さずそっと見守っていききたいと思えます。そして、様々な友達を知り、様々な影響を受けて大きく成長してほしいものです。

親に似ず筆まめな長女は、三年生の頃転校していった二人の友達と文通が続いています。何をしたためているのか知りませんが、そうやって遠くの地で頑張っている友達と交友を暖め合うのは良いことではないでしょうか。今朝も、

「Mちゃんへのお手紙、ポストに入れてね。」

と、父親に頼んで、駆け足で登校していきました。

授業参観に寄せて

若松東 伊予田 勝子

「明日はお母さんの顔を書くんだよ。美人にかくから必ず来てね。」
六年生の娘から、手作りの可愛いイラスト入りの招待状をもらいな
がらも、正直言って、「いやだなあ、三年生の娘のように、もっと普
通の授業参観の方が掛け持ちをするのに気が楽なのに。」と思っ
てしまいました。

さて当日。六年生の授業参観に少し遅れ気味に図工室へ入った私の
耳に、いきなり飛び込んできた『お母さん大好き』の歌。ウナちゃん
の詩に、三十九人が本当に真剣に、心を一つにして歌ってくれた歌に
感激したのは、私一人ではなかったと思います。目をうるませている人、優しく子供たちの心を受け止めている人、それぞれ
の感じ方の中で、子供たちが自発的に、背伸びしながらも、一生懸命力を合わせて頑張っている姿に触れることができて、と
てもうれしく感激しました。

親と向かい合い、一言一言楽しげに話しては鉛筆を走らせる。親の方も、子供の期待に応えようと、身動きもしないで懸命
にモデルを努めました。一生懸命に描く子供たちの熱気で、先生のかげ声も届かず、図工室ははち切れそうでした。普通の授
業参観もよいけれど、こんなに楽しく子供と触れ合いの持てる場も最高です。そう言えば、去年は、「よもぎもち作り」でし
た。子供たちは、教科書の勉強以外にも、いろんなことを学ばせてもらっています。

そして、後の学級懇談会が、またとてもいい雰囲気なのです。

先生から、「今日の資料です。」と渡された両親に対しての一言を読んで、身の細る思いでしたが、子供とは実に細かく、
冷静に親を観察しているのですね。日頃は、つい感情に任せて怒る私に厳しく、よいところは認めてくれ、悪いところは遠慮
なしに批判してくる姿に、いつまでも子供扱いではいけないことを感じました。一人の個性ある人間として認め、今までのよ
うに子供だからといって頭ごなしに叱るようなことはもうしないようにしよう、と決心しました。

日頃はそんなに話し合うことのない私たち親たちですが、子供を思う心、人に迷惑をかけない、人とのふれ合いを大切にす
る思いやりのある人間に育ってほしい願いは同じです。

高学年としての悩み、学習面での心配、家族とのつながり、友達関係など共通の話題を通じて、私たちも仲間になれた気が
しました。

子供たちの間には、おたがいに助け合い、励まし合いは数多くあるけれど、陰湿ないじめとか、仲間外れは絶対にしないは
ずです、と胸を張って言われた、担任の金子先生の日頃の心配りに、皆さんも深くうなずき安心していました。

三年生の懇談会も先生を中心に、また別な悩みがあり、宿題、部活動に対する不安（子供よりも親の方に）など、大変有意
義なお話が多く、下の子にはつい関心が薄らいでしまうことを少しばかり反省しました。

ただ、授業参観は出席するけれど、懇談会になると、だんぜん数が減ってしまい、せつかくの機会も一部の方だけではもっ
たいないと思います。

忙しい毎日のこと、どこかで時間を作り出している情報交換もたまには必要ではないでしょうか。また、私のように子供が二
人以上在籍している者は大変です。高学年の日、低学年の日とか、時間をずらしていただければ、途中で廊下を走り回って、
次の教室に行かないですみ、じっくりと参観ができ、子供との話題も増えるのではないのでしょうか。ご一考願えれば幸いです。



美人に書いてね

「家庭ですぐに役立つ」と大好評

「豚肉のロベール風」料理の△△

上地一丁目 高野瀬けい子

去る六月八日（金）午前十時から、今年度第一回のPTA単発グループ活動が行われました。会場は、昨年末に完成したばかりの家庭科室でした。文化部の行事として最初に使用していただけたことも大変光栄に思いました。

皆様からの要望で「家族そろって喜ばれる家庭料理」ということで、講師は上地五区にお住いの丸林恭子先生にお願いしました。随分たくさんのお母さんたちから応募がありましたが、私達の準備の都合からお断りするなど、ご迷惑をおかけしたことをお詫び申し上げます。

さて、早速ですが、当日の模様をここに記させて頂きます。十時開会でしたが、丸林講師さんはもう九時前から、乗用車に満載した材料や器具を持ち込んで下さるといって熱心さでした。PTA役員の澁谷さんや宿谷さんもお手伝いに駆け付けられ文化部副部長の別所さん、川尻先生も加わり受付やら材料配布やらで、あっという間に十時になってしまいました。

家庭科室の正面調理台の天井には、鏡が取り付けられてあり、先生のお手本がそのままはっきりと見ることができ、とってもよく分かりました。

献立は、豚肉のロベール風をメインにヴィシソワーズ、キュリーのオニオンドレッシングサラダ、デザートにはパンプキンパイと子どもたちが喜びそうなお料理でした。名前は難しいけれど、材料は身近な物ばかりです。

「野菜がたくさん使っているからいいね。」

「冷蔵庫で冷やしたから、スープが冷たくっておいしい！」

「かぼちゃの煮物だと、なかなか食べてもらえないけど、パイにすれば絶対食べてくれるから作ってみよう。」

「おいしいね。すぐ家庭でできるからいいね！」

「ちょっと味が薄かったかしら？」

「そんなことはないよ。おいしい。最高よ。」

と、にぎやかな会話が続き、和気あいあいの雰囲気でした。

盛り付けも工夫一つで、とてもリッチな気分になれることも勉強になりました。この上、ワインでもあれば、と欲張りな気持ちにもかられてしまいそうです。

お顔は見かけたことがあっても、お話をしたことがなかった人たちの集まったグループなのに、とても手早く時間通りで盛り上げました。さすが、『主婦』と思いました。

講師の丸林恭子さんには、大変お世話になりました。第一回が大好評のうちに終り、ほっとしています。今年度も第二回第三回と続きますので、一層楽しい単発グループ活動を企画していきたいと思えます。最後に、丸林先生から教えて頂いた料理法を二つ三つ紹介しますので、今回ご参加できなかったお母さんも家庭で挑戦なさってみてください。

豚肉のロベール風（材料は四人分）

材料 豚ロース（八十〜百グラム） 四枚

塩

小さじ三分の二カップ

こしょう

少々

サラダ油	大きじ一カップ
たまねぎ	二百グラム
ピーマン	二個
トマト	一個
小麦粉	大きじ二カップ
トマトピューレ	大きじ三カップ
スープの素	二分の一個
水	四分の三カップ
塩こしょう	適量
パセリ	適量
マカロニ	適量
青野菜	適量

- 作り方
- 1、肉は脂と肉の間の筋を包丁の刃先で二、三か所切る。肉たたきか瓶で軽くたたき、塩こしょうする。
 - 2、たまねぎは縦に薄切りにする。ピーマンは種をとって一センチ角に切る。トマトは皮をむき種を取り、荒く切る。

- 3、フライパンにサラダ油を熱して、1の豚肉を強火で両面が色づくくらいに焼き、煮込み用の鍋に入れて小麦粉をふりかけておく。

- 4、肉を焼いたフライパンでたまねぎを炒めて肉の上に入れ、続いて、ピーマン、トマトを炒めて鍋にあける。

- 5、トマトピューレとスープを加えて火にかけ、沸騰したら弱火にして十五〜二十分煮込む。味をみて塩こしょうで整える。

- 6、皿に盛り、パセリのみじん切りをふる。付け合わせにマカロニと青野菜の塩ゆでを添える。

パンプキン・パイ（直径二十センチのパイ皿一個分）

材料	かぼちゃ	四百グラム
	砂糖	百グラム
	卵	一個
	生クリーム	二分の一カップ
	ラム酒	小さじ二カップ
	ビスケット	十五枚
	マーガリン	六十グラム



- 作り方
- 1、ビスケットを細かく砕き、マーガリンを混ぜ込む。パイ皿の底にしっかりと敷きつめる。

- 2、かぼちゃ四百グラムを三〜四個に切り、蒸し器で十五〜二十分蒸す。熱いうちに皮を取り、つぶしてから、砂糖・卵・生クリーム・ラム酒を混ぜ込む。

- 3、1に2を流し入れ、百八十度のオーブンで約二十五分焼く。



「あの子どこの子？見知らぬ子

でも今日からは皆我が子！」

上地一丁目 二木 順子

「そういう気持ちになれたらいいな、と思いながら声をかけることにしているの。」

というど、知人のAさんは、道路の中央で三人大声で話し込んでいる高校の男子生徒に近づき、

「ねえ、お願い。ここじゃ通る人に迷惑だで、もうちょこっと広いとこ、あそこの木の下が涼しくてええよ。」

と、少し先の空き地の方を指し、

「今、試験中でしょ。頑張つて。」

と、にこにこ笑いながら声をかけます。

と、まあこんな調子で、どこに行っても、そして、誰にでも声をかけるのだそうです。

かけ始めて二十年になるそうです。最初は「口うるさい、お節介やき。」とか、いろいろ言われたとか。でも、自分の子供にも、同じように誰かが注意や助言をしてきているだろうから、そのお礼の意味もあるとか。たくさんの子供たちとの出会い。その出会いの中で教えられることの大きさ、素晴らしさは、心の中で大切な宝物となっているようです。

「あなたも声をかけてみなさいよ。」

と言われて、声をかけ始めて、三年になります。無視されたり、

「知らない人から話しかけられたら走って逃げなさい、って言われているので、さようなら！」

と走り出す人がいたり、

「おばさん、変な人？」

と聞かれたりもして、自分の子供にも同じ注意をしていた私は大いに反省をしました。そして、まず、日常の挨拶からと心掛けて、顔を覚えてもらうことにしました。三か月、半年、と、少しずつですが子供たちの様子にも変化が見られて、

「おばさん、こんにちは」

と言われたとき、本当にうれしく思いました。一年、一年半と過ぎると、自分の方から話をしてくれるようになり、あるとき、「どうして知らない子にも声をかけるの？」と聞く子がいたのです。私は、

「おばちゃんの子供だと思うようにしているからだよ。僕のお母さんにも言っておいて。どこかで子供を見たら、声をかけて。っておばさんが言ってたよって。」

こうして、声をかけていくうちに、この三月から、知人の手伝いで、東岡崎、竜美丘、美合町、羽根町、柱町、小豆坂とでかける機会が増え、学区外の小中学校の子供たちとも少しずつ顔見知りになり、声をかけると、

「いつだったか、おばさんに会ったね。」

と、話してくれる子供がいたり、坂道を、私の自転車を押してくれる子供がいたり、一人また一人、小さなお友達が増えていきます。

自分の子供は、一人だけと思わず、この子供たちを、Aさんのような気持ちで見つめ、また、明日どこかで声をかけることでしょう。それは、私の子供が、誰かに同じ気持ちで声をかけてもらっていると信じているからです。そして、上地のお母さん方も、みなさん、そう思っていてくださる、と信じています。

大盛況、上地学区親子夏祭り

上地五丁目 加藤 鈴江

夏休みも終わろうとしている八月二十五日。

例年なら子供たちの宿題に追われている頃です。今年は、私にとっても、PTAの役員、委員さんにとっても大変な、そして忘れられない一日となりました。

近藤会長さんの発案で、PTA活動としては、自主的で初めて企画された夏祭り。何もかも白紙の状態で始められました。五月の第一回役員会で、「夏祭り」についての内容を話し合い、映画会、食品バザー、ゲームコーナー、くじ引き大会などを、上地小のグラウンドで、夜間照明を使用して行なうことに決定しました。そして、役員、正副部長さん方で構成された「夏祭り特別委員会」を発足させ、さらに具体的な話し合いを重ねていきました。

六月の委員会において、各部会ごとにゲームとバザーを一種類ずつ担当して頂くことが決定し、各商品の数はアンケートをとって決めることにしました。

一週間後にアンケートの集計結果を見てびっくり、想像もなかった数が書かれていました。さっそく特別委員会を開き、検討した結果、みたらしだんご千本、フランクフルト九百本、ドーナツ三百本、ポップコーン八キログラム、おにぎり三百個、風船釣り八百個の準備をすることになりました。また、ゲームは一回十円とし、景品のお菓子を六百個ずつ用意することになりました。それにしても、ものすごい数に、当日はどうなることかと心配になりました。

準備活動も着々と進められ、各部ごとに作られた、アンパンマンの的当てボード、悟空やミッキーマウスのポスター、大きな看板なども出来上がってきました。

八月二十四日、午後七時からリハーサルを行い、各部ごとに最終の打ち合わせを行いました。

翌二十五日。さあ、夏祭りの幕開けです。

子供たちも集まり始め、食品バザーも、ゲームコーナーも開店です。六時、七時と時間がたつにつれ、長蛇の列ができ、子供たちの歓声がグラウンドに響き渡りました。そして、午後八時頃には、ほとんどのゲームコーナーや食品バザーの商品が売り切れの状態となり、うれしい悲鳴をあげました。そして、校庭の中央では盆おどりも始まり、夏祭りも最高潮に盛り上がっていきました。

約四か月の準備期間中、何度となく話し合いに出席して下さった委員さん方、各部をリードし、まとめて下さった部長、副部長さん方、本当にご苦労さまでした。改めて上地小PTAのママさんバザーのすごさを感じました。

今後子供たちのために役立てるよう『力いっぱい』頑張ります。

最後になりましたが、ご協力して下さいました先生方、総代さん方、ご父兄の皆様、ありがとうございました。



くじ引きに参加する浴衣の子供

初めて入学させて

上地三丁目 大眉 めぐみ

我が家の長男は、背は高いのですが、体重がそれに比例して増えないため、少々ひ弱に見えます。いつか、レストランのお子様ランチのおまけに、女の子用がきてしまったこともあり、本人も鏡に向かって悩んだりしました。性格もいたってのんびりしています。

そんな彼ですから、今年の四月より、上地小学校の一年生として入学するにあたり、とても不安でした。この上地地区に越してきたのが、幼稚園のときで、知った子が数えるほどしかなかったので、友達ができるだろうか、と心配でした。

入学式、学校へ向かう途中で、

「学校って、勉強をいっぱいするんだよね。」

と、私の顔を見あげて言った息子。その息子達に、校長先生が絵を使って、

「大きい耳で、先生の話を聞いていれば大丈夫。学校へ元気に出てきましょう。」

と、やさしく声をかけて下さいました。

大きなランドセルを背に、学校へ通い始めると、前の席の子、後ろの席の子と次々と友達ができました。ヘルメットをかぶり、自転車に乗って、

「友達の家へ行ってくるね。」

と、初めて聞く友達の名を告げ、うれしそうにでかける彼の背を見送る時、少したくましくなったなあ、と感じたものです。

しかし、朝の支度は、せかされないとできない。学校へ持って行ったはずの連絡バックは忘れてくる、上靴のまま帰ってきてしまう・・・、ということもありました。そんな時は、学校できちんとやれているのかしら、と考え込んでしまいました。

そんなこんなで、ようやく一学期が過ぎました。

二学期になって、ふと気がつく、連絡帳を見ながら自分で持ち物を揃

えています。「つめが伸びているから切って。」とも言いにくるようになりました。

朝は、夏休みに一緒に過ごした従兄の影響でしょうか。朝刊に目を通し、

「中日、勝ったって。ぼくの好きなバンスロー、どうかな？」

などとつぶやいてから、学校へ出かける余裕も出てきました。

幼稚園の時は、かっこいいから野球の選手になりたいと言っていた彼ですが、この頃は、

「ぼく、作るのが好きだから、おもちゃを作って売ればいいじゃんね。」

「自分の好きな本を書けるから、本を書く人もいいな。」

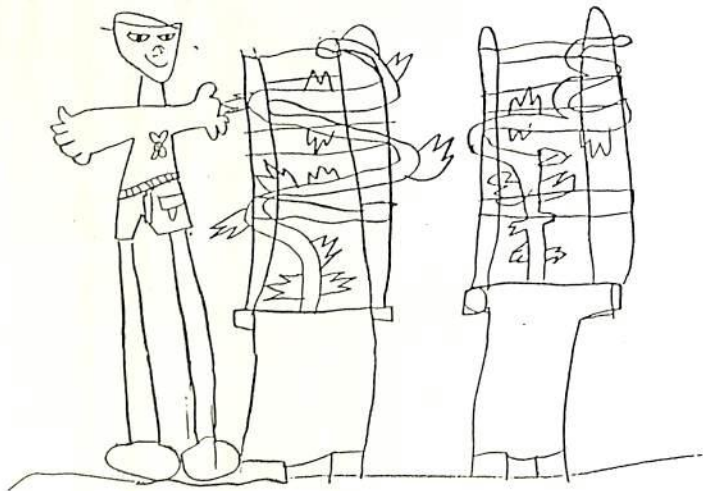
などと、自分自身で見つめる目も、少しはできてきて、ひとまわり大きくなったようにも思えます。

今、運動会にむけて練習にはげんでいます。

「運動会、きつと見に来てね。」

と、話す子供の顔に自信が感じられます。

お使いに行ってくれたり、留守番ができるようになったりと、少しずつでも確実に親の羽の下から離れつつある、わが子の姿を認め、これからも親子ともども成長して行きたいと思います。



1年 大眉 聡

子供の成長と学校

上地一丁目 横田 佐代子

現在中学三年生の長女が、小学校二年生のときに、上地小学校が開校されました。三人の子供がいる私は、それ以来ずっと小学校と縁が切れませんでした。四年前に、「PTAの地区委員に」と頼まれました。「一度はやらねば・・・」と思っていましたので、お引き受けするのになりました。続いて、役員を二年、合わせて三年間、微力な私でしたがやらせていただきました。この間、いろいろな方たちと出会い、また、いろいろな経験をさせていただきました。大変な時もありましたが、今思えばなつかしく、楽しい思い出になりました。

今年初めて開催された夏祭りは、なにもかもが初めてのことで、PTAの役員や委員さんは、準備をするのに大変な苦労をされたことと思いますが、実現できて本当によかったと思います。

私も、盆おどりに参加させていただきましたが、小学校の子供たちばかりではなく、幼児や大人も一緒になって楽しめる行事が増えたということで、夏休みの楽しみの一つになりました。

六年生の二女は、今年が最後の小学校生活です。夏には、念願であったバレーの全国大会へ出場ができました。

これも、学区の皆様や、先生方のあたたかい励ましと、指導して下さった方々の熱意が、子供たちに力を十分発揮させた成果であったことだと思います。本当にありがとうございます。

思えば、四年生のとき、部活動も少年団も、本人の希望するバレー部に入りました。

少年団の当番などで、子供がバスやアンダーの練習をしているところを見ましたが、家では、バスはもちろん何もやったことがなかったので、あんな状態で本当に六年生のように上手に出来るようになるのだろうかと思いました。

それからしばらくしたある日、帰ってくるとすぐに、

「お母さん。私ね、バスが十回続けて出来るようになったよ。」

と、とてもうれしそうに報告してくれました。そして、

「五十回も出来るようになったよ。」

と話してくれたとき、

（子供って、なんて上達するのが早いのだろう。）

と、先生やコーチの方の熱心な気持ちが伝わってきました。

五年生の九月から、新チームになると、練習もだんだんと厳しくなり、苦しいときもありましたが、子供たちは、

『全国大会へ行くんだ。』

と、それを目標に頑張ってきました。これも、先生やコーチの方との信頼関係がなければ、出来ることではないと思います。

私たち父兄も、子供のこの気持ちを大切に、応援してやりたいと思っていました。

また、その間には、いろいろな大会や試合などもあり、親も、少年団を通して、他の子供たちの父兄とも知り合いになり、一緒に行動したり応援したりしているうちに、子供たちだけでなく、親同士の交流も出来、仲良く付き合えるようになりました。

特に父親は、他の子供たちのことを知るよい機会であり、私たちも、子供のおかげで随分楽しませてもらいました。

子供たちが一番成長する小学校の六年間を、学習や運動に「力いっぱい」力を発揮できるように、これからも暖かく見守ってやりたいと思います。



活躍する女子バレーボール少年団

映画『おこりじぞう』を見て

十一月十一日(日)の上地小学校文化展には、多数のご参観をいただきましてありがとうございます。授業参観とともに行なわれた親子映画会にも五百人ほどのご父兄に鑑賞していただきました。

原爆の悲惨を学ぶ／＼寄稿Ⅴ

上地二丁目 白濱 桂子

この映画は、広島、長崎への原爆投下という二度にもわたる過去の忌まわしい出来事を、史実として描いていました。が、単に史実としてのみ受けとるのではなく、被爆の苦しみを現在に至っても引きずって生きておられるという現実を、改めて思い起こさせてくれました。

実は、主人の母が、十七歳の頃、長崎で、被爆しております。辛い爆心地からかなり離れていたお蔭で、今でも健康に暮らしてはおりますが、それでも被爆手帳を持っており、今でも定期的に検診を受けております。

直接、母から被爆時の体験を聞いたことはありませんが、主人から間接的に聞いたり、また、原爆記念日のテレビニュースを見たりして、原爆の恐ろしさは多少なりとも分かっているつもりでした。

しかし、この映画を見て、今まで以上に、その原爆の悲惨さを時代を越えて体験できたような思いでいっぱいです。特に、「ひろちゃん」が、水を欲しがる部分と、地藏さんが砂のようにサラサラと風化していく部分は、原爆のすべてを物語っているようで、涙を止めることができませんでした。

今の子供たちは、戦争とか、原爆とかかそのような世界とは全く無縁の中で育ってきており、映画を見てどのような感想を持つのか、たいへん興味のあるところでした。でも、鑑賞した後の、子供の感想発表を聞き、私の想像以上に突っ込んだ意見もあり、子供たちにも戦争の恐ろしさ、平和への思いが感じられ、心強く思いました。

最後に、この映画を見て、つくづく感じることは、戦争のない平和な世界を守り続けるためには、私たち親が、微力ながらも風土作りをしなければならないということです。

私たちの世代は、子供の頃から戦争の体験談を幾度も幾度も、何かにつけて聞かされてきました。それが、今になって考えて見ると、自然と平和を愛する心が芽生えてきたのではないかと思われます。

そんなことを考えて見ますと、今私たちが果たさなければならぬことは、私たちの親から受けた恩恵を、今度は子供たちに与えなければならないという責任と義務ではないでしょうか。

わらいじぞうが おこった

二年二組 いいだ あゆみ

ひろちゃんのおかあさんは、ひろちゃんのことをとてもかわいく思っていたのに、ばくだんが、にんげんをねらっておちてきたから、みんな火でやけてしまいました。

せなかをやけどしたひろちゃんが、たおれた家の下から出てきた時、とてもかわいそうでした。

のどがかわいたひろちゃんが「水、水。」といったら、おじぞうさんの目から、水が出てきました。わたしは、おじぞうさんが、ひろちゃんがるしんでいるのを見て、目からなみだを出してあげたのだ、と思います。まえかけをあらってもらったから、おかえしをしたのかなあ、やさしいなあ、と思いました。

さいごに、わらいじぞうがおこったのは、ひろちゃんやおかあさんが死んでしまって、かわいそうだったからだと思います。このえいを見て、せんそうってこわいなあ、と思いました。

全教室にCDラジカセ

上地二丁目 上野 修子

去る十二月一日(土)の午後一時より、小学校の体育館で「日用品バザー」が開催されました。

このバザーは、収益目標額八十万円以上、民生委員の方々の協賛で収益の一部を岡崎市社会福祉事業にも寄付させていただくという二つの目標をたてて実施しました。このことは、PTA活動にも大きな目標と、新しい試みでもありました。

十一月に入るとすぐ、学校から次のようなお話がありました。

「朝の会や音楽の時間では、先生方が自前のラジカセを使って指導しています。そのため、クラスによっては、後ろの席では音が割れてしまつて聞き取りにくいという子供たちの声があります。今回のバザーで、CDラジカセを全教室に設置したいと思いますが・・・。」

数日後、民生委員の方々が学校を訪問され、今回のバザーへの協賛と収益の一部を市社会福祉事業への寄付を申し出られました。そこで、学校・PTA・民生委員の各代表の方々の話し合いの場が持たれ、目標額を八十万円以上にする事が決定しました。目標達成のためバザー用品寄贈を各家庭だけでなく、銀行・スーパーを始め、各事業所にもお願いすることになりました。

分担を民生委員の方々と相談し、さっそく取りかかりました。

「上地小学校のPTAです。日用品バザーの寄贈のお願いに上がりました。今回は、民生委員の方々の協賛を得て、収益の一部を社会福祉にも役立てていただくことになりました。よろしくお願いします。」

PTAとしての初めての経験でした。頭を何度も下げました。有難いことに、お願いに上がる先々で丁寧に対応していただきました。また、

「待っていたよ。」「昨日から出しておいたよ。」

などと、暖かいお言葉がありました。

前日は、台風の中、準備のために体育館へ行くと、舞台にはあふれんばかりの品々が山積みされていました。さっそく、各担当に分かれて、値付けなどの作業が進められました。すごい量です。はたして全部売り切れるのかしら。もし、売り切れたとしても、目標額が達成できるかしら。そんな心の動揺を隠して、努めて明るく振る舞いました。

当日は、昨日の台風とはうって変わって、快晴です。

開始三十分前、委員さんたちが集まって準備完了です。

午後一時。いよいよバザー開始です。扉が開き、ドドーンと人が流れ込むと期待していましたが、例年になく静かな入場。心の中には一抹の不安が。それをじわじわ押し退けるように入場者の増加。

開始後、三十分から一時間でピークに到達。忙しさの真っ只中。いつもは、口下手な私も、一枚でも多く売ろうと一所懸命。

二時三十分。一段落。ふと、回りの売れ具合が気になりました。見渡すと、食品と日用品が残り少々。野菜は売り切れ。パンとお茶がまだです。少しでも多く売ろうとする委員さんたちの熱気が手に取るように伝わってきます。

今回は、目標額が決まっているため、なかなか値下げの許可が下りません。交渉をしている人達。やっと値下げの許可が出て、委員さんたちの顔に安堵の色が。もう一息。最後の粘り。

三時二十分。終了。わずかな品を残して、売り切れ。がらんとした体育館を見渡すと、この数時間が夢のように感じられました。上地小のPTAの力の偉大さを目の当たりに見た思いでした。あの山のようなバザーの品々が、わずかな時間で消えてしまったのです。

委員さん、ご苦労さまでした。バザーに寄付していただいた方々、ありがとうございました。言葉では言い尽せない感謝の気持ち私を包みました。後は、収益の報告を待つだけです。少しでも多くの収益があり、民生委員の方々の意向に添えるように願うだけでした。

翌日、学校から、バザーの収益が目標に達したと連絡をいただきました。よかったです。これで、民生委員の方々にも喜んでいただける、ほっとしました。みなさん、本当にありがとうございました。

あんもち雑煮試食会

土地一丁目 宝珠山みよ子

平成二年十二月二十二日発行のPTA新聞(二十号)で、ふるさとだより『雑煮』を取り上げたのは、保護者の四割が愛知県外の方々に占められていて、千葉・山梨両県を除く四十五都道府県に及んでいるため、その特色を見てみようということからでした。

原案作り部会では、「子供の遊び・方言・特色のある食べ物」などいろいろな意見が出されましたが、発行が十二月末の終業式の日であるということで、これから迎える正月にちなんだふるさとの食べ物を紹介しようということになって、『雑煮』に決定しました。

広報部員十六人の中だけでも、もちは丸もち・切りもち・あん入りもち・汁もみそ仕立て・しょうゆ仕立て・具も大根・人参・こいも・柚子・三つ葉・蒲鉾・鶏肉・豆腐・等々、多種多様でした。

これが上地小六百六十七家庭となると、きつとびっくりするようなことがあるのではと、さっそく行動開始。日本を七ブロックに分けて、五、六年生の父兄を中心にブロック別に数人ずつ選んで取材をし、それを整理しなおして新聞の四面に載せました。

全国にはいろいろなお雑煮があることを知りました。編集の途中で、これらのお雑煮を作ってみたいということになりましたが、発行までに時間的な余裕がなく、その機会が持てませんでした。そのため、試食の結果が掲載できなかったことが残念です。

年始早々、念願の『あんもち雑煮』の会を、ほとんどの部員が集まって開くことができました。

参加した人は、中部以东出身の人が多くので、もちの中に『あん』が入って、さらに、白みその汁仕立てと聞いたとき、とても雑煮を想像することは出来ませんでした。

「胸焼けするんじゃない？」

「本当に食べられるの？」

等々、みんな興味はあるが試食は不安といった意見が出されました。

もちは、大福より皮の厚いあん入り丸もち、汁は白みそ仕立て、具は輪切りの大根・人参、そして上から青のり粉か小口切りの葱をのせると、あんもち雑煮の出来上がりです。

まず汁だけ味わってみると、少しとろっとして甘く、あんもちを食べながらの汁は塩っぱく感じられました。さらに、大根・人参も合わせて食べると、甘味も押さえられてあっさり味となり、味の変化の微妙さにはびっくりしました。

上に乗せる青のり粉と小口切りの葱でも違いがあります。青のり粉の場合は、汁の中に青のり粉がひろがると乾燥した匂いと味がします。小口切りの葱は、味をまろやかにしてくれるようです。

試食した部員と先生も、「初めて食べたけど、おいしかった」「あんもち入りと聞いたときはびっくりしたけれど、食べてみると美味しなものね」と好評でした。

お正月を前にして、香川県の地元新聞にも『さめきあんもち雑煮』が紹介されていました。

今まで、正月近くになると店頭に並んだあんもちを買って、雑煮にする家庭が増えているそうです。これも時代の流れでしょうか。



あんもち雑煮の試食会



左 三河風

右 あんもち入り

早朝マラソン

若松東 丹下 説子

日増しに寒さが加わってくる十一月の終りの頃でした。

純一郎が、

「お母さん、明日から、朝、マラソンの練習するよ。」

と言ってきました。

「だれと走るの？」

と、聞き返すと、近所の一級上の康くんと一緒に走ると言います。親の言うことはあまり聞かないけれど、友達との約束は、親との約束と違ってしっかり守っています。

私は、とてもよいことだと思いました。内心では、いつまで続くか、と思っていました。

次の日から、朝六時には起きて、十五分には家を出て、康くんのところへ行くようになりました。

ところが、一週間過ぎても続いているではありませんか。よく、まあ頑張っているものだと感心しました。私が、五時半に起きて、六時にテレビのスイッチを入れると、すぐに起き上がってきます。

家を出た後、車にぶつかったりしないか、転んだりしてけがでもしていないだろうか、など、とても心配です。

私の心配をよそに、純一郎は毎日出かけていきました。子どもが、自分の考えで行動している姿は、とても頼もしく思い、精一杯応援してやりたいと思いました。

朝五時に起きるのは、つらいけれど、純一郎が頑張っているのです、早起きして応援してやります。

日曜日は、休みます。

それ以外は、風の強い日や、寒い日も休み無しで走ってきました。また、少しくらい体調が悪いときも、休むように言っても無理をして出かけていきます。

三か月間、早朝マラソンを続けてきて、いよいよマラソン大会の当日になりました。

家を出かけるとき、純一郎が、

「お母さん、今日、何番だったらいい？」

と言いました。私は、

「一番になれたらいいね。」

と言いました。しかし、最後までしっかり走ってくればいい、と思いました。

職場の許可をいただいて、学校まで応援に行きました。純一郎の順番は、四年生の男子の中で五十四番でした。順位が思ったより悪かったのは、途中で、咳が出てきて、思うように走れなかったのだそうです。

自分が一生懸命頑張って走ったことに対して、満足感もっていました。

来年も頑張ると、早朝マラソンを康くんと一緒に、今でも走る続けています。

世の中は、一生懸命やっても報いられないことがある、ということを感じてくれればよいと思います。また、くじけることなく、来年に向かって頑張っている姿は、心強く思います。

私は、結果よりも、その努力に対して努力賞をあげました。この三か月間で、私が感じたことは、子どもをほめてあげることが元氣の出るもんだと言うことです。

今、勉強も頑張っていてやっています。そして、このまま素直で思いやりのある子どもに育ってほしいと願っています。



4年 丹下純一郎

おいでん 岡崎施設めぐり

若松東 横山 純子

「岡崎の文化・福祉・産業と、まだ知りえないことが随分あるね。」

P T A広報部会のなかで、こんな意見が飛び交いました。出生地を全国に持つ上地小P T Aとしては、第二のふるさとなるこの岡崎に『おいでん 施設めぐり』があることを聞き、さっそく企画実行することになりました。

二月二十七日。好天に恵まれて見学日和。

三十人の会員は、早々に市役所から提供されたバスに乗り込み、一路市役所の会議場へ進みました。中根市長の御挨拶があり、三月の定例議会に、上地周辺のJ R駅建設調査費があげられることになっていることを、お聞きしました。普段、座ることもない議員席に着くと、緊張感や責任感を持ち、一様にこわばった表情になってしまいました。

次は、我々が直面する長寿社会到来にあたっての福祉施設「岡崎高齢者センター」でした。四つのセンターからなるこの施設では、老人の方に細心の注意を払い、広く緩やかな階段、転んでも痛くないジュータン敷き客部屋には床暖房、風呂は浅く各所に手摺がついています。寝たきり老人の方を介護する方々の努力や献身ぶりには、目を見張るばかりでした。

「こんなに明るい建物なら、気持ちも明るいね。」

「男湯の方が広いのはなぜ？」

「六十歳になったら、お茶でも飲もうね。」

「設備がとても整って安心だね。」

と、それぞれ思いは様々でした。

会員兼添乗員の話が咲くのを横目にしてバスを進めていくと、コンサートホールか一流ホテルを思わせる建物が現われました。「うわあー。すばらしい。変わった建物だね。」実際、ホテルと間違える方もちらほらいらっしやるのか。

それは、各家庭が必ず世話になっている「岡崎市中央クリーンセンター」でした。二十一世紀完成の、中央総合公園に隣接し、将来はプールを始めセンター内の施設はすべて余熱のエネルギーで賄うのだそうです。

それにしても、この建物で本当にごみを扱っているのでしょうか。半信半疑で見学に移りました。悪臭、煤煙とかく汚名のつくごみにとっては、このクリーンセンターが改良してくれました。まず『臭わない』、それは二重のエアーカーテンによって防ぎ、煙は塩化水素から出る有毒ガス除去装置と集塵機で無害なガスへと転換しているのだそうです。

高齢者センターやクリーンセンターを見学して、市民として、国民としての税の大切さを実感することができました。

クリーンセンターを後にして、「真福寺」へと向かいました。竹膳料理をいただき、住職のお話をお聞きしました。五百三十二年前に建て替えられたそうですが、以来岡崎市北部を一望し、人々の安寧を見守ってきて下さったのでしょうか。

そして、最後に「まるや太田商店」に行き、独特な八丁みその説明を聞きました。みそ樽（六トン〜十一トン入り）の上には麹（こうじ）と同じ重さの石が積まれていて、震度四程度の地震にも耐えられるとか。

「あの重石はどうやって乗せるの？」

との質問に、二十五年間、石積み専門に仕事をなさっていらっしやる方が、「ちゃんと計算して乗せている。」のだそうで、麻布一枚に乗せてある重石は、三年間に上がった下がり下がり、冬と夏でも随分と違うそうです。

そして天気予報よりもよく当たる樽の湿り具合で明日の天気予報が百分分かるそうです。（ちなみに翌日は雨で当たり）また、家康はおにぎりにこの八丁みそを入れた戦陣にぎりを持っていったそうです。

このようにして一日が終わりました。税の大切さ、環境保全から資源回収の必要性など多くのことを知ることができました。また、参加した人達との会話ははずみ、多くの新しいお友達が出来たこともうれしいことでした。

終わりに、お世話になった市当局に改めて御礼申し上げます。

六、ふるさと上地九年の歩み

近づく上地学区・小学校創立十周年

「シリーズ「ふるさと上地九年の歩み」を特集

上地小学校 松原 暁三

昭和五十一年十二月十九日。

この日に上地区画整理組合の設立総会が行なわれました。準備が開始された昭和四十年から数えれば、すでに十年の歳月が経過していました。標高五十〜七十メートルの雑木山が連なる地域でしたが、ここに開発の夢を託した区画整理事業推進のスタートが切られたのです。

畔柳八百吉・加藤利吉両第一第二理事長を中心に、幾多の困難を解決しながら開発事業は今日の成功を収めることができました。加えて、若松地区の区画整理事業と合体し、更に大きな学区へと発展して参りました。そして、間もなく、人口二万人に達する勢いの上地学区へと前進を続けています。

上地学区区学校創立十周年記念心事業実行委員会が発元足

昭和五十八年四月一日の上地小学校開校とともに始まった上地学区の町づくりも、来年度で十年を迎えることとなります。

こうした記念すべき節目を控え、上地学区区学校創立記念事業実行委員会が昨年の九月二十二日に発足しました。

実行委員会は、成瀬司総代会長を実行委員長に、柴田勝社教委委員長・近藤則康PTA会長・嶋田稔上地小学校長の三氏を副委員長に選出し、すでに運動を開始しています。実行委員会は各区総代さんを初め学区諸団体の代表により、次のような機構で組織されました。以下、役員の皆さんをご紹介します。

委員長 成瀬司総代会長

副委員長 柴田勝社教委員長 近藤則康PTA会長 嶋田稔上地小学校長

会計 加藤正之八区総代 鈴木豊PTA副会長

会計監査 辻村正共生会会長 佐野功尚友愛クラブ会長

記念事業部 柴田昭三九区総代 牧野幸広若松新総代 鈴木清江学校開放委員

大井正之・川尻美智子・大田恭子・鶴田秀幸・富田尚子上地小学校教諭

記念誌刊行部 柴田賢治十区総代 渡辺節夫五区総代 竹下睦雄体育指導員 宇野政己子ども会会長 藤田助次交通指

導員会班長

長坂信一・青木純・高山治朗・奥村武文・名倉嘉章・守山妙子上地小学校教諭

記念施設部 鈴木行夫七区総代 高柳金蔵六区総代 吉見功敬民生委員長 加藤鈴枝PTA副会長

佐野佳三・高橋由美子上地小学校教諭

同窓会準備部 遠藤昇PTA書記

金子喜子・渡辺修上地小学校教諭

事務局 松原暁三上地小学校教頭

松山耕太郎・石井美智子・加藤勝彦上地小学校教職員

推進委員 後藤実・小林繁夫・杉山和位・三浦正一・中村政一スポーツ少年団団長

顧問 総代・社教・PTA・子ども会・学校開放委員会など上地学区諸団体役員経験者

上地学区学識経験者・上地学区功労者など事業推進の趣旨に賛同し、ご指導頂ける方々

記念心施設設を合むむ事業計画の概要

昨年押し詰まった十二月二十二日に記念事業第三回実行委員会が開かれ、次のような事業計画案が決まりました。

十周年記念心行事

平成四年秋に文化的アトラクションを含む学区上げての記念式典を開催する。

当日には、タオル・下敷きなど予算に応じて記念品を頒布する。

十周年記念心誌の刊行

学区学校一体の内容を目指し、次のような内容を含む記念誌とする。

・上地学区・小学校の創立と十年の歩み

・ふるさと上地の歩みと開発の歴史

・ふるさと上地の伝説と創作童話

・上地八景探訪

このほか、上地小学校児童郷土読本「ふるさと上地」を刊行する。

記念心施設設の施設置

上地ふれあい牧場の充実と堅固な動物飼育舎新設

十周年記念碑像と憩いの階段設置(サンクガーデン東)

上地小学校同窓会心誌立立松心誌の開催

平成四年秋に同窓会設立総会を開催する。

上地小学校卒業生と在校生の同窓会名簿を刊行する。



10周年記念上地ふれあい牧場スケッチ (予想図)

「ふるさと上地九年の歩み」

―次号からシリーズで発行を計画―

これら十周年事業の企画に当たって、成瀬司総代会長は、次のように抱負を述べておられます。

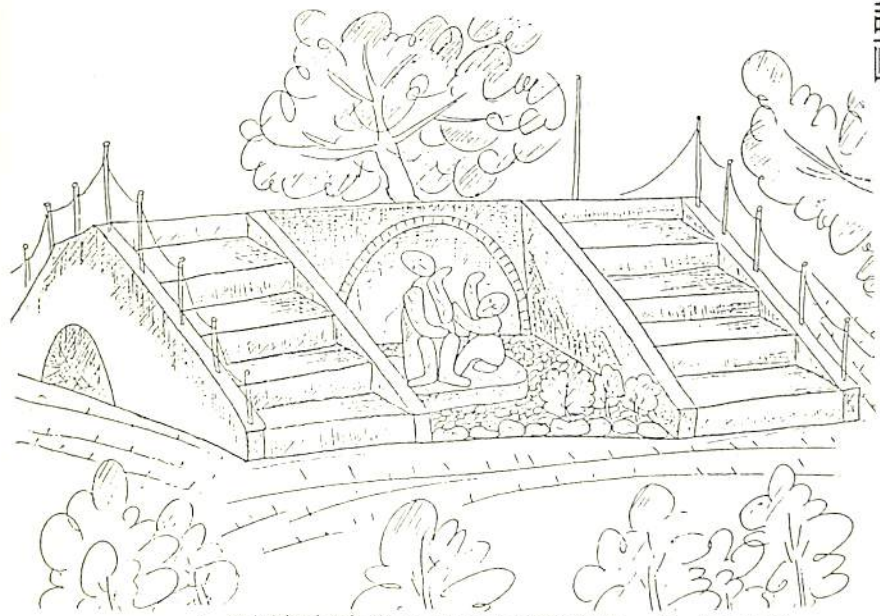
「新生上地学区の力強い建設の息吹を込めた全町民が参加できるもの
にできたらと思う。そのためにも、ぜひとも学区住民の皆さんや上地
で事業所を経営している方々のお力が頂きたい。」

また、柴田勝社教委長は、

「上地八景の絵はがきにみられるように、上地らしい夢のある企画に
ふくらませて頂きたい。そのためにも、上地学区と上地小学校が一体
となった創立十周年事業にできたらと思う。」

と、語っておられます。

このような全学区・学校あげての事業にすべく、学校だよりでは、
創立以来今日までの学区学校の歩みをシリーズとして毎号特集してい
くことになりました。来月号は、昭和五十八年の上地小学校創立当時
の状況にふれていく予定です。各位からの思い出を含む情報をお寄せ
下さるようお願い申し上げます。



10周年記念像と憩いの階段スケッチ (予想図)

昭和五十八年四月四日上地学区・学校創立式典を挙行！

上地小学校 松原 暁三

一月の学校だよりで予告しましたように、今月から上地学区・学校九年の歩みを回顧していきたいと思えます。これは、単
に過ぎ去った過去を「回顧」するだけではありません。全くの白紙の中から、十年先二十年先、いやもっともっと先の上地を
見通すべく、苦勞を重ねられた先輩の足跡をたどることもあります。

創立当時の上地学区結成準備委員長(鈴木 勲)さん・PTA会長(松田千秋)さんの二氏に取材し、回顧「第一弾」特集
にできたらと思います。

「上地学区結成準備委員会」を先頭に学区づくり

「こんな記録がありますよ。」

こう言って、青焼きのコピーを見せて下さったのは初代PTA会長の松田千秋さんです。二月の初めのことでした。多忙を
極める電気工事店の仕事を置いて、わざわざ職員室を訪ねて下さいました。

表紙には「上地学区結成準備委員会」(昭和五十八年三月刊)とあり、各種団体規約参考例集を収録しています。そこには
総代会・PTA・子ども会・婦人会・老人クラブ・社教委員会の会則原案が掲載されています。

★総代会会則(案)を見てみましょう。

第一条 この会は、上地学区総代会と称し、事務所を岡崎市立上地小学校内に置く。

第二条 この会は、上地学区内各町相互の連絡を密にし、その健全な運営と発展を計るとともに、住民の自治と福祉の向上を

めざすことを目的とする。

★また、PTAの会則(案)はどうでしょうか。

第一条 この会は、岡崎市立上地小学校父母と教師の会(略称、岡崎市立上地小学校PTA)と称し、事務所を上地小学校内に置く。

(ここで、現在の会則と比べてみます。)

第一条 この会は、岡崎市立上地小学校父母と教師の会(略称、上地小PTA)と称し、事務局を上地小学校に置く。とあり、発足時の精神が今もきちんと受け継がれています。

さて、ここで準備委員の皆さんをご紹介します。

総代表 表 四区(鈴木勲) 五区(渡辺節夫) 六区(多田智・三浦義巳) 八区(岩瀬米雄・渡辺五郎) 若松新

町(中尾和四夫) 若松東(柴田 勝)

P T A 代表 四区(田中小十郎・清水正勝) 五区(石川 勝・則武孝二) 六区(藤島紀明・鈴木弘治) 八区

(柴田秀治・松田千秋) 若松新町(広島美代子・牧野かな江) 若松東(磯貝静子・塚本千恵子・木多たか子・高橋充子)

子ども会代表 山本輝男・畔柳壺次郎・下川秀子・森 茂二・金森正明・吉野幸子

婦人会代表 杉本悦子・小林郁子・大川内美千代・岡部菊枝・神谷愛子・赤塚弘江

老人クラブ 辻村 正

顧問 市議会議員(渡辺五郎)

相談役 福岡学区総代会長(太田玉治) 同副会長(三井石政) 岡崎学区総代会長(都築小太郎)

福岡小学校PTA会長(野々山讓) 岡崎小学校PTA会長(近藤正吾)

福岡小学校長(鈴木義治) 岡崎小学校長(杉田富貴男)

上地小学校開設事務取扱(早川正己) 岡崎支所長(上原義之)

昭和五十八年四月四日(月) 午前十時三十分

―ぬかるんだ運動場で完工・開校・入学・始業式―

五十八年四月の上地小学校開校に関わる諸準備一切を担当していたのは、初代教頭の早川正己先生でした。福岡小学校に在籍しながら、「上地小学校開設事務取扱」職として一年前から各方面との連絡や設計面にいたる一切の業務に携わっておられました。この早川先生が記されていた「岡崎市立上地小学校開校準備日程」書があります。開校式を迎えるまでの準備の足取りを少し紹介しましょう。

三月二十一日(月) 岡小在校生説明会

二十二日(火) 福小在校生説明会

二十五日(金) 完工検査、電話設置、新聞原稿締切り

二十六日(土) 職員出校、新入生学校見学、母体校より備品搬入、PTA備品搬入手伝い

二十八日(月) 職員出校、新五六年生出校、備品搬入、PTA備品配置手伝い

二十九日(火) 職員出校、新五六年生出校、備品搬入、PTA備品配置手伝い

三十日(水) 職員出校、備品搬入、P.T.A備品配置手伝い
三十一日(木) 職員出校、P.T.A備品配置手伝い
四月 一日(金) 辞令交付、職員出校、備品配置

二日(土) 入学式準備、全校出校式練習、職員出校、式準備、P.T.A式準備手伝い
四日(月) 完工・開校・入学・始業式

こうした準備のかたわら、三月十五日には岡崎市長(中根鎮夫)福岡小学校長(鈴木義治)岡崎小学校長(杉田富貴男)三氏連名による保護者・来賓への式典案内状が出されていました。「ご奉仕・ご協力を賜ったおかげでつつがなく完成」(案内状)した当日は、上地小学校校庭(雨天の場合は岡崎勤労福祉会館)で予定通り挙行されました。

前日の三日には、初代校長野田守登先生を初め二十三名の教職員が勢揃いし、校内清掃と教室内外に生花を飾るなど細やかな配慮のもとで準備万端整えました。そして、いよいよ、待望の歴史的な上地小学校創立の時を迎えたのであります。

心配されていた天気は前夜から降り出した雨の後、すっかり晴れ上がり関係者をほっと安心させてくれました。しかし、運動場は三月下旬までブルドーザーが整地作業を続けていたため、少しの雨でもぬかるみがひどく、急拠ブルーのシートがグラウンドに敷き詰められるという状態でした。

「今から考えると、想像もつかないくらいひどいグラウンドでした。」

「運動靴の裏にどろがこびりついて、校舎昇降口までいっぺんによごれてしまう有様でした。」

開校当時の苦勞を共にした先生たちの共通した声です。

工事現場用の足場を組み立てた臨時のステージが、北校舎東側の国旗掲揚塔前に取り付けられました。そして、ステージ前面には紅白の横断幕がセットされ、祝賀ムードを盛り上げました。

昭和五十七年一月、現在地に上地小学校用地を取得

四月、「上地小学校」と校名決定

七月、地鎮祭と杭打ち開始

などの経過が関係者の胸をほうふつとさせたことでしょ。その胸中いかばかりかと察せられます。

上地小の門

おじさん二人が

測量器を使って校門をつくっていたぞ。

弟がにっこりして聞いている。

早く上地小学校へ行きたいな。

上地小の門をくぐりたいな。

(当時六年生の前沢慎治君が上地小の門と題して書いた詩の一節)

こうして、子どもたちの積もる願いが花開いたのです。



上地小学校開校式典(昭和58年4月4日)

上地学区・学校づくりへの夢を託して

―学区区結成準備委員長と初代校長の「謝辞」―

五十八年四月四日に発行された学校新聞開校特集号「上地」に掲載された学区・学校代表者の謝辞の一節をここに紹介致します。学区学校創立への真摯な思いがひしひしと伝わって参ります。

岡崎市で三十九番目の小学校として上地小学校が開校いたしました。教育水準において、全国有数といわれる岡崎市が、豊かな経験と英知を集めて造られた施設と設備は、すばらしいものであると思います。……

しかし、子どもたちを教育するところは学校だけではありません。地域社会からも大きな影響を受けて成長いたします。この上地学区は新興住宅地域で、今後ますます人口も増え発展するでしょう。お互いが見知らぬ者同士であるがため、人間関係が疎遠となり、よりよい教育への環境づくりの努力が、忘れがちになるのではないかと心配されます。子どもは私達共有の宝であるとともに、心身ともに健全に育てる義務があります。ここに、開校を祝うとともに次代を担う子どもたちを育む、明るく住みよい社会を建設するため、学区民心を合せてご参加下さる決意が必要だと思えます。

その一致した熱意が子どもたちにも通じ、それに打たれ応じてくれることを信じてやみません。どうか幸せな明日のためにも、この上地学区づくりにご理解とご協力をお願い申し上げます、開校の祝辞にかえさせていただきます。

上地学区結成準備委員長（鈴木 勲氏）

岡崎市南部開発の中心地、上地町字欠の下十五番地の一に上地小学校の雄姿を仰ぎ見ることができ、感慨無量、胸がいつぱいでありました。標高二十五メートルの台地、三階と四階の二棟の白亜の校舎、二万四千九百メートルの広大な運動場。眼下に岡崎市南部を一望できる素晴らしい環境。

ここに学ぶ五百八十二名の児童と二十三名の教職員の幸せを、今さらながらかみしめている次第であります。上地っ子の夢は今、この上地の地にしっかりと根をおろし、無限の伸長を秘めてふくらみ始めたのであります。

上地っ子万歳！心をひとつにして、スクラム組んで、精いつぱい大きな声で叫びたい気持ちでいっぱいです。上地学区の文化の交流、その支点として上地小学校が存在し、その交流の輪が大きく、そして固ければ固いほど、学区も学校も共に進展するものだと思っています。本校の発展が新しい学区の構築に寄与するものと念じて止みません。

上地小学校の沿革、第一ページが今開かれます。

「歴史は後見するものにあらず」

正しく、ふり向いては、ふり向いては綴る歴史であってはなりません。

足元を踏みしめ、前をしっかりと見つめて、一步一步歩み続け、協調、和合の精神こそ、尊い足跡になるものと確信しております。

上地学区民の方々、父母教師会の皆様と共に、誠心誠意、学校づくりに心を尽くし、精進をいたすことをお誓いし謝辞といたします。

初代上地小学校長（野田守司登氏）

テレビを通じてPTA創立総会の開催

松田千秋初代PTA会長さんから頂いた資料に、「昭和五十八年度岡崎市立上地小学校父母と教師の会 創立総会要項」があります。表紙には、「テレビにより 各教室において」と書いてあります。

「これはね、先生、開校した時には、まだ体育館がなかったからですよ。父母が一堂に会する場がなかったから、確か四階の視聴覚室からテレビを使って各教室に放送で提案をしたんですよ。」

と、松田さん。

「それで、意見のある人は教室のインターホンで四階の役員席まで連絡をお願いしたんです。」

開校から一か月後の五月六日(月)授業参観を終えた父母の皆さんが、教室に残り、テレビ放送を聞きながらPTA設立総会を成功させて下さったのです。

総会次第を見てください。

- 一、開 会 の 言 葉
- 二、PTA設立準備委員会経過報告
- 三、会 則 審 議 承 認
- 四、役員候補者紹介承認
- 五、新 役 員 あ い さ つ
- 六、昭和五十八年度事業計画案審議承認
- 七、昭和五十八年度予算案審議承認
- 八、来 賓 祝 辞

九、校 長 あ い さ つ

十、閉 会 の 言 葉

連絡

(一) 帽子・服装のこと

(二) 諸費納入のこと

(三) 学校整備のこと

「前の年から、もう準備が始まっていましたが、準備委員といっても、知らない者同士でなかなか意思が通じなくて困りました。特に、学校が福岡と岡崎二つの小学校から分離してできるわけですから、それぞれの伝統があって、新設上地小学校に新風を送り込むのは、大変でした。」

松田初代会長さんは、こう話しながら、「PTA設立準備委員会経過報告」書を開かれました。その中から、主な項目だけをご紹介します。

五十七年十二月十三日 岡崎小(上地小学校関係) PTA設立準備委員会発足

十四日 福岡小(上地小学校関係) PTA設立準備委員会発足

五十八年 二月 三日 市教委と完工開校入学始業式の打合わせ

五日 市教委・総代・団体長・支所長・開設事務の合同準備委員会

二十二日 福岡小一年から五年保護者へ学校説明会

二十三日 岡崎小一年から五年保護者へ学校説明会

三月十二日 PTA設立準備委員会(開校に関する作業分担)若松東公民館

PTA設立準備委員名

田中 正子	清水てる子
石川 房江	則武 法子
藤島美智子	鈴木 松栄
柴田 清子	松田 千秋
広島美代子	牧野かな江
磯貝 静子	塚本千恵子
本多たか子	高橋 充子

二十一日 岡崎小通学団結成
 二十三日 福岡小通学団結成
 四月五日 PTA役員候補との折衝

十五日 PTA設立準備委員と候補者打合わせ会
 三十日 PTA総会準備委員会

まさに、初代会長さんがもたらされたように「本業もできない多忙な毎日だった」ことがよく分かります。


昭和五十八年度（初代）PTA役員紹介

会長	松田 千秋
副会長	成瀬 政敏
副会長	近藤 勝彦
書記	青木 定仔
会計	則武 法子
会計 監査	岡田 昭紀
会計 監査	東 ふさ江
婦人研修員	鈴木 松栄
婦人研修員	高橋 充子
婦人研修員	澤 和代

祝

校 式 開 業 始 工 学 完 入

昭和58年4月4日



岡崎市立上地小学校

開校式パンフレット表紙

上地学区・学校の誕生で「上地の山が動いた」

―柴田初代上地学区総代会会長と野田初代校長の寄稿―

上地小学校 松原 暁三

福岡小学校から「友情の木」を贈られる―開校の昭和五十八年四月―

昭和五十八年三月二十四日の東海愛知新聞の記事から紹介を始めます。「友情の木」写真入りの「学校ミニ情報」欄がそれです。

この四月に開校する岡崎市立上地小学校の完工を前にして、福岡小学校では上地小へ移る児童、福岡小に残る児童の間に熱い友情の交換が行なわれている。

千百六十余人、三十学級の福岡小は、四月からは八百余人、二十二学級に縮小される。約三百人が、上地小へ通うこととなる。このため、共に学び共に遊んだ友情をいつまでも育みたいとの願いをこめて、二十二日、上地小へ移る児童とお別れ式の席で、福岡小から上地小へ「友情の木」が贈呈された。

樹齡三百年の「陣屋の松」や「蓮如の松」などの名松を校庭に持つ福岡小児童が朝夕仰いだ大松にちなんで贈られたもので、末永い友情の象徴として上地小に移植される。

各学級では、これを機会に学級文詩集の発行、お別れ会の開催など、工夫をこらした催が行なわれており、去る者、残る者の友情が一層強く交換されている。

私たちといっしょに上地小学校へ行く松よ

お前は大松の弟だ。

お前の太いずっしりとした幹は「不屈の努力」という。

先生方の教えがたまっている。

お前の曲がりくねった枝からは、

「上地へ行っても、ぼくのことを忘れるなよ」

という大松の叫びが聞こえる。

兄弟校のしるし、

友情の松よ。

福岡小と上地小が、

いつまでもいつまでも仲良しでいられるように

深く根をはれ、

大空高く伸びていけ。

.....
 八年後の今、この友情の松は、正門西の一角で直径四十センチ、樹高七メートル余に成長しています。



福岡小学校から贈られた「友情の木」

寄稿1 上地の山が動いた

柴田 勝 初代上地学区総代会長

私が初めてここ旧若松町字東三田ヶ入の地内に入ったのは、昭和四十五年の早春、節分前の頃でした。よく晴れた寒い日でしたが、北側を背にした細い山道は、春近しを思わせる暖かさでした。

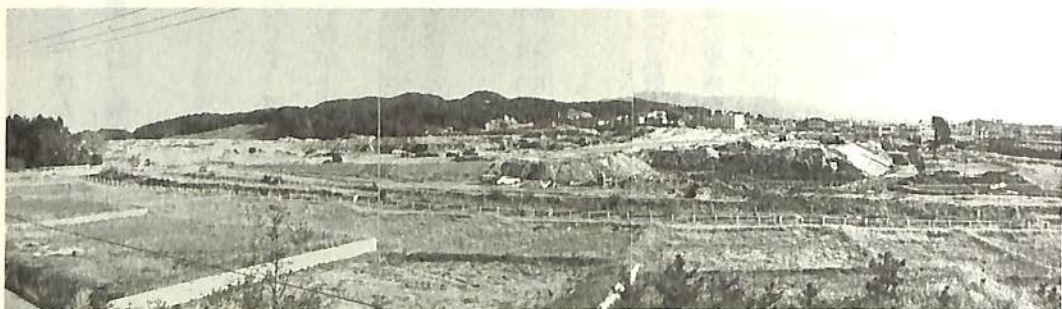
少し坂を上がると、その前に突然碧く澄み、今にも引き込まれそうな池を見ました。それが奥山田池と私の初めての出会いでした。周囲が深々と山に囲まれ、満々と水を貯え静まりかえっていました。ただ一人、山の中に立たされた不気味さで身の引き締まる思いでした。

池の堤防下は山田が続ぎ、はるか西の方向に上地の村落が点在するのを眺めるとホッとした気分でした。

その当時の上地小学校の敷地になった山は、奥山田池の堤防から南方向へ入った所に若松屋の火薬庫がありました。それから先は、奥へ入ることのできなような山でした。

それが、昭和四十七年春から始まった若松土地区画整理事業、昭和五十一年十二月からの上地土地区画整理事業により、この地域の様相が一変しました。

上地小学校の敷地二万四千平方メートルの整地が行なわれたのは、昭和五十六年九月から翌年の三月まででした。



上地小学校予定地の整地作業（昭和56年）

上地の土矢崎古窯（こよう）の発掘があったのもその頃です。それは、今から千年前、上地に住んでいた陶人が営みをした跡でした。奥山田池の東岸です。その周辺からは大量の陶片が発見され、現在、岡崎市の郷土館に展示されています。勤労福祉会館は、その周辺に建てられているのです。

今日では、わずかに奥山田池と「あらなぎ教」の森が往時の面影を残しているだけです。

上地には、何千年も前から人が住んでいました。その人たちが上地の歴史を作ってきたのです。更に将来へと上地の歴史は延々と続きます。しかし、その上地の歴史の中で全く偶然に、全く予期せず、我々世代の者が上地小学校開校・上地学区創立の機会に恵まれたのです。

新しい「ふるさと上地」づくり、新しい上地の歴史づくりに参加できたことは、本当に幸運だと思います。その誇りと榮譽に感激します。

間もなく、上地学区創立・上地小学校開校十周年を迎えます。この記念すべき事業の記録を後世に伝える意義は大きいと思います。

私の趣味で昭和五十年頃から撮影した八ミリのフィルムがあります。移りゆく若松・上地の風景を残したいと思い、年代を追って撮ったものです。その中に、上地小学校整地前・工事中・整地完了と変わりゆく上地の風景などが写ったものがありました。最近、これをもとに、上地小学校三年生の社会科の授業で上地の昔や上地小学校のできる前の頃の勉強をお手伝いする機会がありました。

担任の高山先生にお手伝いして頂き、VTRに編集して子どもたちと一緒に見ました。改めて、上地の移り変わりに驚きました。大きな変化の目撃者としては、このことを後世に伝える責任があると痛感しました。上地小学校の東から大谷池に連なる山々は、今も上地の変貌を静かに見守っています。そして、これからも、上地の繁栄を見続けてくれることでしょう。

寄稿2 校訓「力いっぱい」に託したもの

野田 守司登 初代上地小学校長

昭和五十八年四月四日、夜来の雨がいつこうに止みません。全職員、早朝から集まって相談はしてみたものの、らちがあきません。午前十時からの開校式を予定通り運動場で行なったらいいのか、それとも、本館二階の廊下と渡りで実施すべきかという事です。開校にお骨折りに来てきた実行委員の総代さん、父母代表の方々の苦悶の表情は隠し切れません。

校庭の雨水汲み取り作戦

新しい土の匂いにする運動場に敷かれたシートに雨水が光ります。「開校記念式」の看板も垂れ幕もぐっしり濡れて、盆栽の黒松の枝からしずくが落ちています。

「傘をさして外でやっては……。」

「福岡・岡崎小学校のテントを全部借りては……。」

「テント三十あれば、子どもも来賓も、みんな入れる……。」
「なやなや。」

雨が降った時は室内で行なうことは、事前打合わせで決まっていたのだから、こんな声は出る筈がなかったのです。

「先生！おはよう。」

「おはようございます。」

午前七時四十分です。新六年生の準備係の子たちとの挨拶が交わされています。

降っていた雨が小降りになり、急に明るさが戻ってきた時もう子どもたちは、手に手にバケツと水汲み用の塵取りを持つています。

「シートの水汲みをやる。」

「ぞうきんで水取りをやる。」

と、誰に言われなくても、水汲み作戦が始まりました。

福岡小、岡崎小の区別なく活動が開始されています。両学校の違和感等は微塵もなく、力合わせての奉仕です。

これを見た新一年生の子も素足になってお手伝い。

お母さん方、先生と文字通り学校ぐるみでの排水活動の大絵巻の展開でした。

こうして、午前九時。祝開校記念の号砲一発。

この時、春の陽光が雲を破って注ぎ込んだことを今も鮮明に覚えていきます。

新一年生による素足の水汲み手伝いや新六年生のシート水汲み作戦に感激し、その夜、嬉しさの余り涙して、酒を汲み交したことは忘れられません。

物と人のかかわりで「事」が成る

「事」の成就是「物」の構築と「人」のかかわりから達成されると言われます。このことを上地小学校に当てはめてみますと上地小学校の学校づくりという「事」を成し遂げるには、「物」の構築、つまり、校舎内外、運動場、緑化、遊び場等様々な環境整備をはからなければなりません。

これらの「物」とふれあい、物を媒体として「人」が高まり、人と人のかかわりから、より高い交流がなされる時「物」「人」の両者が相互補完され、更に、高次元の人づくりに返って来ます。この営みを大切にすることが、上地つ子づくりであり、学校づくりの基底であると思います。

開校後三週間余り、座って会議したり話したり、じっと腰をすえる協議ができませんでした。運動場の地ならし、石拾い、教室づくりにワックスがけ、教具の整備等、総じて

「子どもと共に」

を合言葉に汗した日々でした。

先生も子どもも毎日、サンクガーデンに出て、全校で歌や踊りにも興じたりしました。両学校の違和感は、共に歌い、共に踊る行動を重ねるうちに同化され、かえって刺激され、触発され、意欲化され、生気こそ見られるようになっていきました。

全職員二十三名が一喜一憂しながらの、まさに本気の泣き笑いの開校十日間でした。子どもたちの行動をとらえての資料を残らず集めて、第一回の職員協議会を開催。

誰言うとなく、「ヨーオ」「チャ、チャ、チャ」と、手打ち式の拍手。気合いに満ち、同調した手拍子は爽快そのものでした。



雨水が光るグラウンドでの開校式

「廿六に」の次女執力で

第一回の職員協議会では、主として五・六年の先生から資料が出され、検討が開始されました。味噌汁の夕食後は、車座になり延々と会議が進みました。

この時の反省メモを少し紹介致します。

.....

・開校式直前の運動場排水の奉仕作業こそ、上地小学校づくりの姿が表われている。協力・協調・献身・奉仕・親愛・友愛の心が表われている。

・同じ目標で同じ態勢で、しかも、集団で力を結集する時、例えば遊び場づくり、石拾い等の時こそ子どもたちの瞳が輝く。

・せっぱ詰まった時の場面では、子どもたちは本当に生気に溢れる。その時、先生もせっぱ詰まっていなければ本物ではない。

・開校記念日の雨水対策こそ、同次元の危機感を子どもたち

が自ら感得した時、状況改善に全力を傾注して行動化をはかる。

・より高められたエモーショナルな行動は、集団と個の交流を盛んにし、より意欲化された自己実現をはかる。

・緊張と緩和のリズムが大切であり、学年ごとに場の設定と内容検討をすることが大切である。

・「やらせる」「教える」の立場を、子どもと共に「やる」「学ぶ」の姿勢にかえ、視点を学年ごとに考えるべきである。

.....

福岡・岡崎両小学校から分離統合した上地っ子たちが共に汗し、共に苦しみ、共に喜び、共に笑い、同じ歩調の響きを聞くとき、子らの心が胸を打ち、私たち教師の心の支えとなって、新しい学校づくりに精進できたことを嬉しく思います。心を尽くしてこそ、生気溢れた行動を生み、その表象行動こそが豊かな心を醸成することができるのだと思います。

これらが、まさに、学校づくりの基盤であり、合言葉になっていきました。

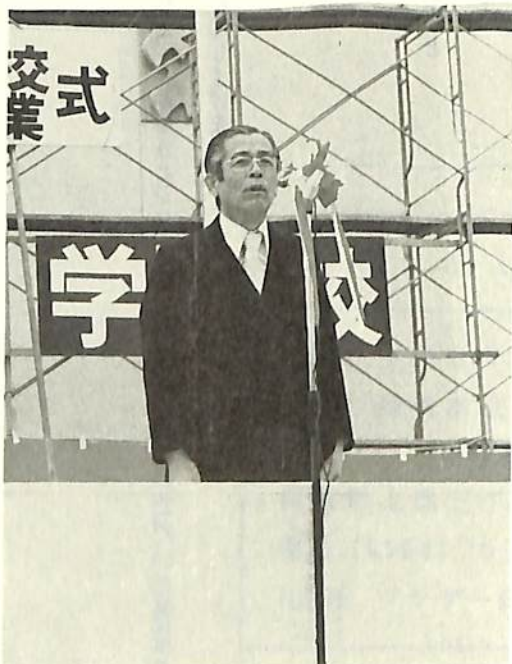
上地小学校開校記念日。

上地小幕明けに上地っ子が演じてくれた「シート水取り絵

巻」の快挙。

力いっぱい心尽くしこそ、天が晴れ祝福の陽光に浴させてくれたものと信じています。

校訓「力いっぱい」は、上地小のこころであり、歩みそのものと念じています。



力強く完工の謝辞を述べる野田初代校長



机などの教室備品を運び込む先生たち

おわりに

ここに「ふるさと上地 4」の発刊をみることになりました。「ふるさとシリーズ」の取材にご協力いただいた各位と「寄稿」を寄せていただいたPTA会員の皆さんに厚くお礼申し上げます。

私たちは、この冊子を作るにあたり

- 一、足で調べたり書いたりしたものであること
 - 二、生き生きと活動する上地っ子の生の姿を伝えること
 - 三、できるだけ子どもにも参加してもらい、手づくりであること
- などを考えて進めてきました。

しかし、微力なため、調査不足や誤りもあろうかと思えます。その節は遠慮なく指摘していただければ幸いです。また、学区に埋もれている地理、歴史、民俗、言い伝えなどがありましたら、お知らせいただきたいと思えます。

再来年度には学区・学校創立十周年を迎えます。この冊子によって、わがふるさと上地の良さを再認識していただき、すばらしい学区づくりのため、少しでもお役に立てば、編集にあたった者としてこれ以上の喜びはありません。

なお、表紙の題字は本校の高橋由美子教諭によるものです。

平成三年三月

岡崎市立上地小学校教務主任 大井 正之

研 究 同 人

嶋田 稔	松原 暁三	大井 正之	佐野 佳三
長坂 信一	川尻美智子	金子 喜子	松山耕太郎
守山 妙子	青木 純	中根美恵子	高山 治朗
鈴木 尚子	太田 恭子	土屋 恵子	岡本きみゑ
高橋由美子	満本 妙子	渡辺 修	松本 博子
酒井 幾子	奥村 武文	松野加代子	稲垣たかみ
名倉 嘉章	森下 初子	柴田 美香	鶴田 秀幸
杉本 峰	田中 鉄也	竹平 真仁	富田 尚子
吉田 千鶴	松坂 禎文	小田 英宣	清水かをり
石井美智子	加藤 勝彦	岩瀬 幹夫	

ふるさと上地 4

発行日 平成3年3月20日
発行者 岡崎市立上地小学校
校長 嶋田 稔
岡崎市上地三丁目31番地
電話 (0564) 53-0501
印刷所 ブラザー印刷株式会社

